

秋晴れのもと、11月3日(月・祝)に、京都市左京区蹴上で、関西慶應寮和会第6回定例懇談会が、新参加の本坂OB、奥山OBを始めとして、26名の出席者のもと開催されました。

<参加者> 敬称略 (26名：部分参加も含む)

清浦 奎明 (S38商)	山本 恒徳 (S38経)	増田 登 (S40商)
由良 豊一 (S40商)	相本 琢郎 (S41法)	酒井 克己 (S42法)
宮 純一 (S46商)	松尾 哲雄 (S47経)	若林 良 (S48医)
三角 竜二 (S49工)	鎌田 誠 (S51法)	青嶋 義晴 (S52工)
本坂 道 (S52法)	西村 元秀 (S53商)	清時 康夫 (S54法)
袖岡 稔 (S55商)	山代 和也 (S55法)	阪本 光宏 (S61商)
永末 一郎 (S61経)	奥山 栄二 (S63経)	竹崎 誉 (H02法)
浄住 徹朗 (H05経)	兵藤 公治 (H10理)	脇田 圭吾 (H12総)
宮崎 博 (H16経)	松永 修 (S58工)	

## I 第1部 平成26年度 関西慶應寮和会総会(25名)

13:15~13:35

左京区内の会議室において、物故者黙祷(S38上田OB)の後に、青嶋義晴幹事(事業担当)の司会で総会が開催され、塾歌斉唱・会長挨拶に続き、阪本光宏会計担当から、平成26年1月1日~平成27年12月31日までの第Ⅱ期中間事業(阪本事務局長代行)・中間会計(阪本会計担当)の報告がありました。(写真1)

### <報告事項>

#### ・第Ⅱ期中間事業報告

上記期間における事業活動(平成26年度総会、第5回・第6回定例懇談会)及び情宣活動(関西慶應寮和会新聞発行、寮和会本部への情報発信)についての報告がありました。

#### ・第Ⅱ期中間会計報告

上記期間における中間収支計算書に関する中間会計報告がありました。

以上の報告に対して、全会一致で了承されました。



写真1 総会にて由良会長よりご挨拶(設立趣意書に触れて)



写真2 第2期発電所 書<功天亮>を望む

## <Ⅱ-1>第2部 京都蹴上散策 遷都後京都復興の源泉を訪ねる 24名 13:35~16:30

今回のテーマは、<功天亮>(てんこうをたくす・・・第2期蹴上発電所正面の文字を引用)です。その文字は、久邇宮邦彦殿下の書かれた書で「水力エネルギーという自然の恵みを人々の生活に生かすことこそ、天の意思に叶うものである」との意味です。その言葉の意味する処を、秋の京都 琵琶湖疎水に親しむ中で考えることが出来ました。(写真2)

先ず、蹴上発電所の前を散策しました。今は現存していませんが、第1期発電所は、明治23年に5年の歳月をかけて完成した琵琶湖疎水の水を利用した日本で最初の水力発電事業発祥の地です。発電方式は水の落差(有効高さ33.74m)を電気エネルギーに変える水路式。第2期発電所は煉瓦造りの建物のみが現存しています。

昭和11年に完成した第3期発電所は、今も発電し京都の街に電気(4,500kW)を送り続けています。

次に、琵琶湖疎水記念館から蹴上インクラインに沿って散策しました。この蹴上インクラインは全長582m(世界最長)、高低差36mの琵琶湖疎水の傾斜鉄道跡地です。琵琶湖と蹴上の高低差は45mであり、その高低差はほとんどがこのインクラインによるものであり、当時はこの部分の船の上り下りを傾斜鉄道で行って運航を容易にしていました。なお、そこで使う巻き上げは、蹴上発電所の電気で賄っていたとのことです。

蹴上インクラインの上方には、この難工事を計画完遂した田邊朔郎博士の像があり、その像と共に皆様で写真に収まりました。(写真3)

その後、インクラインに沿って、南禅寺まで下り水路閣を見学しました。この水路閣は、疎水事業の一環として施工されたもので、延長約93m幅約4m、水路幅2.5mの煉瓦造りの水路橋で、当時は由緒ある古寺内を横断して建ったために賛否両論が上がったそうです。(写真4)

南禅寺三門の見学の後に、次に向かったのが、名勝 無鄰菴です。この無鄰菴は、明治27年から29年にかけて明治・大正の元老である山県有朋が京都に造営した別荘であり、静かな佇まいの中、しばし時間を忘れさせてくれました。



写真3 田邊朔郎博士像の前で(蹴上インクライン)



写真4 南禅寺水路閣にて

## <Ⅱ-2>第3部 懇親会(兼)納会 京都木村屋本店(JR京都駅前)

26名 17:00~19:00

蹴上の散策で脚の方も疲れてきたところで、西村元秀幹事(渉外担当)の司会で懇親会が開かれました。乾杯の音頭は、宮OBから。料理は店自慢のアンデス高原豚しゃぶでした。

次いで、懇親会の初参加者(本坂OB,奥山OB)の一言スピーチが場を湧かしました。会も押し詰まったところで、清浦OBからく関西慶應オープンカレッジ(仮称)に触れて>の講評。最後は、増田会長補佐よりく“関西”創生に触れて>の挨拶とともに、京都在勤・在住の幹事各位への謝意をも表され、納会には恒例となった中締めスピーチでした。

### ○ 琵琶湖疎水について

琵琶湖疎水は、滋賀県大津市の琵琶湖取水口から京都市伏見区の約20kmに及びます。特に、取水口から蹴上までの間は高い山で阻まれ3か所のトンネルのうち、長等山トンネルは延長2,440mで当時の日本のトンネルでは最長のものです。(写真5)

<田邊朔郎博士> 1861年~1944年

明治維新と東京遷都に伴い人口が減少し産業も衰退したため、第3代京都府知事の、北垣国道が、灌漑、水道、水運、動力利用を目的として、琵琶湖疎水を計画。その主任技術者として工部大学校(現在の東京大学工学部)を卒業したばかりの田邊朔郎を任じその難工事にあたらせた。当時の土木技術からも極めて難工事であったことに加えて、安積疎水等のようなそれまでの土木事業とその背景も異なった。

- ・地元の計画として進められ、巨額の費用負担は京都市民
- ・外国人技術者の手を借りずに、日本人のみで大工事を施工
- ・地方の農村でなく京都という大都市でおこなったためマスコミを交え賛否両論が渦巻く

その難工事を、田邊朔郎は卓越した測量技術、トンネル掘削技術と高い精度の工事管理で着工から5年で完成させた。(明治23年)その時の田邊朔郎はまだ28歳。田邊朔郎の業績の中で特筆すべきは、工事途中で、水車利用を米国で導入間もない水力発電に変更したこととされている。琵琶湖疎水工事の後、田邊朔郎は東京帝国大学教授の職を得たが、数年でその職を辞し、北海道の鉄道路線選定・設計を行い監督を行う。その後京都帝国大学の教授に迎え入れられ、一生を通じて実に多くの建設事業を成し遂げ、英国土木学会より世界で最も権威あるテルフォードメダルを贈呈された。

(参考出典) 京都インクライン物語 田村喜子 山海堂



南禅寺水路閣



蹴上インクラインの船運搬台車

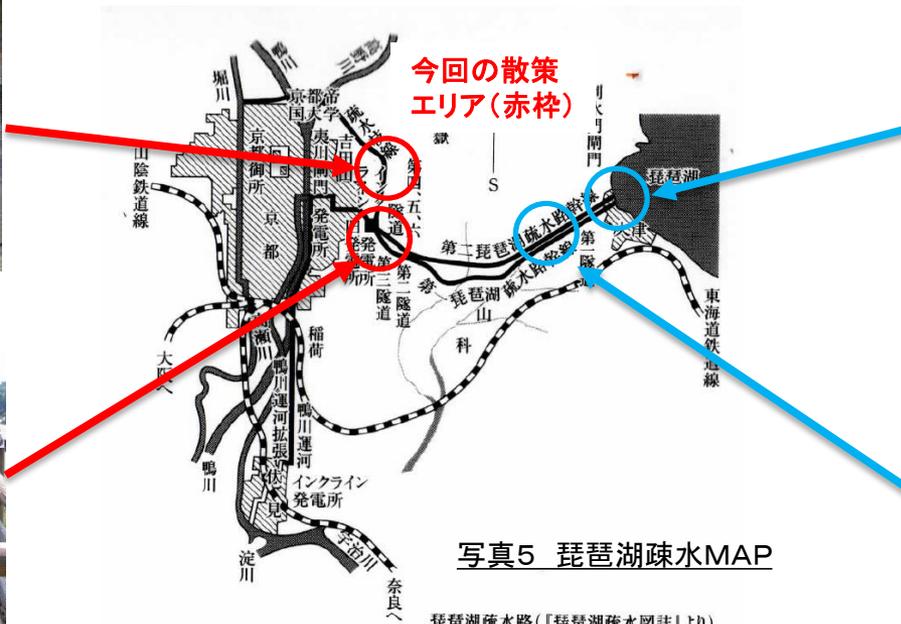


写真5 琵琶湖疎水MAP

琵琶湖疎水路(「琵琶湖疎水図誌」より)



琵琶湖取水堰



トンネル入り口

### Ⅲ OFF-TIME

今回は関西慶應寮和会の幹事：西村元秀さんのご趣味を紹介し  
ます。西村さんと言えば剣道。他にも会社経営でお忙しい中、株式  
投資、ゴルフ、語学(英語・中国語)、読書と幅広く楽しんでおられ  
ます。特に、最近はお様に影響されたのか韓流ドラマにはまって  
おられます。

剣道は小5から始めて、慶應義塾体育会剣道部にも3年まで在  
籍しておられたとのこと。社会人になってから警察で稽古したり、  
たまに試合にも出場し、4段の腕前。今はほとんど稽古されていな  
いそうですが、出身の天王寺高剣道部にOB会長として年に何回  
か後輩指導に行っておられます。剣道を続けているのはズバリ気  
分転換とのこと。会社経営はストレスが大きいので身体を動かす  
ことは最高の健康法とのことです。(写真6)

株式投資は実益も兼ねておられます。会社経営者との対話の  
つもりで長期投資されており、小口ですが保有銘柄は50を超えて  
いるとのこと。株主報告書を読むだけで世の中の流れが見えてく  
ると楽しんでおられます。投資信託の報告書も深読みするとおもしろ  
い。ファンドマネジャーの特色が見えてくるのは、以前に証券会  
社にいたことも幸いしているのではとのことです。

そしてインタビューの最後に、2年前に病気をしたので、とにかく  
健康第一で人生を楽しみたいと、笑顔で結ばれました。



写真6 今も現役 剣道剣士(銀行誌より)

小四の時、友人が近所の公園で素振りをして  
いるのを見て始めた。中高大、社会人と続け  
て一応四段ではある。海外駐在などで中断もし  
たが、今も時々稽古している。「剣道時代」など  
雑誌も熱心に読み、11月の全日本選手権も自  
分が出ている気持ちで観戦する。おそろしく相  
好きなんだろう。スポーツよりやや深いものがあ  
るようだ。出身高校剣道部のOB会長もしてお  
り、高校生に交じって稽古するのも楽しい。一生  
かかわっていきたい。



田邊朔郎博士の偉業の源は何か？

作家 田村喜子氏は、その幼少期にある  
と言う。

文久元年(1861年)、朔郎は幕臣の  
砲術家の家に生まれたが、政変が幕臣と  
その家族の境遇を大きく変え、武士の  
子弟として多くの屈辱を味わった。

しかし、その逆境がかえって朔郎の  
不屈の精神力を養ったとしている。

しかしこの難工事を28歳で成し遂げた  
のは、驚きというしかない。



写真7 田邊朔郎博士像

### Ⅳ 編集後記

記者は京都育ちで、子供の頃から蹴上インクラインを見て  
いましたが、琵琶湖疎水こそが明治遷都後の経済面・精神面の  
両面で衰退していた京都を救った大事業であることを、本見学を  
通して再認識しました。

まさに今回のテーマ<功天亮>そのものです。特に、田邊朔郎  
博士の不屈の精神は、我々現役がその一部でも体していかなば  
ならないと感じました。(写真7)

本懇談会のように、先駆者が時代を造った足跡を辿ることは、  
何物にも変え難い勉強だと思えます。このような活動の一つ一つ  
が、<設立趣意書>にもあるように、関西慶應寮和会が人間愛を  
深め、その中から塾や社会に向かって良識を発信する母体に  
成長していくものと確信します。と言いましても、皆さんはそろって  
酒好き。これからも、大いに飲みそして語り合しましょう。

今後も、今回以上の楽しく有意義な活動を続けて参りますので  
会員の皆様のご協力とご参加をよろしくお願ひします。

以上